



平成21年度 決算概要

平成21年度の決算状況についてお知らせします。

1 総括事項

平成21年度につきましては、公立高畠病院改革プランに則り経営形態の見直しを行うことにより、経営責任の明確化と意思決定の迅速化を図るため、新たに病院事業管理者を設置し企業感覚による経営改善を実行してまいりました。

その結果、平成21年度の収益の状況につきましては、外来患者及び入院患者の増加並びに健診事業への新たな取り組み等により、前年度と比較し大きく改善し、改革プランの実施初年度の目標数値を、ほぼ達成することができました。

また、新型インフルエンザワクチンの町民への予防接種につきましても、近隣市町に先駆けて公立高畠病院を中心とした町内診療機関による実施体制を構築し、的確に対応することができました。

診療体制につきましては、常勤医師の招へいが大変厳しい中で、麻酔科医師の招へいが実現し、全身麻酔による手術を再開することができました。

2 収支の状況（消費税除き）

入院収益・外来収益ともに前年度を上回り、総収益で対前年比33,560千円の増収となりました。

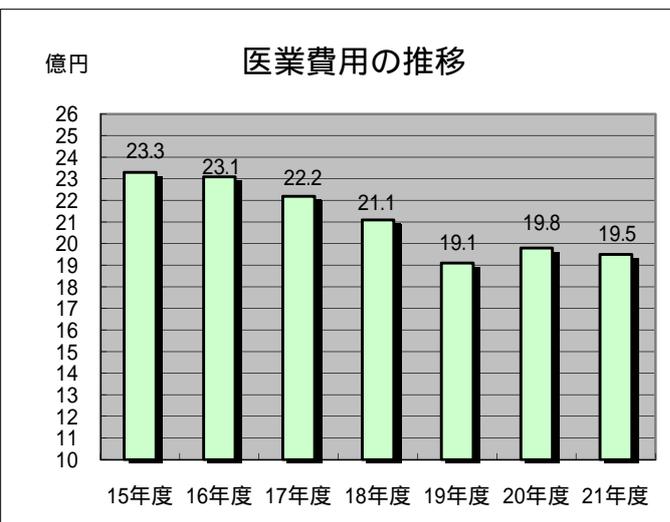
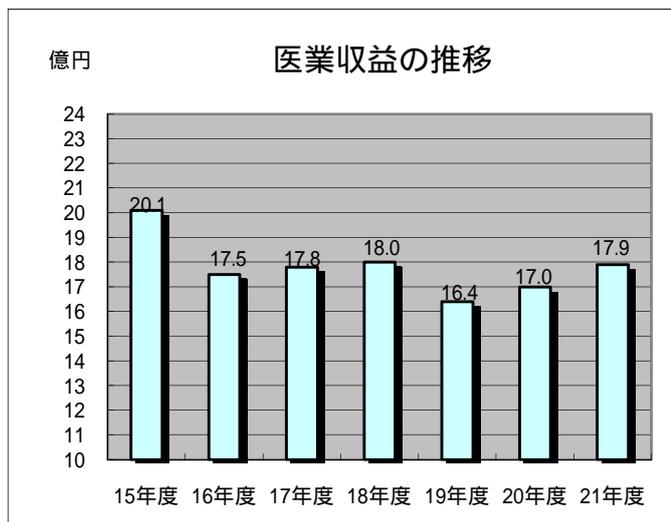
一方費用では、材料費の絞り込みや経費の削減に努めた結果、総費用で対前年比34,501千円のマイナスとなりました。

総収支では前年度より68,061千円の改善を図ることができましたが、3,807千円の純損失を計上する結果となりました。

(単位:千円)

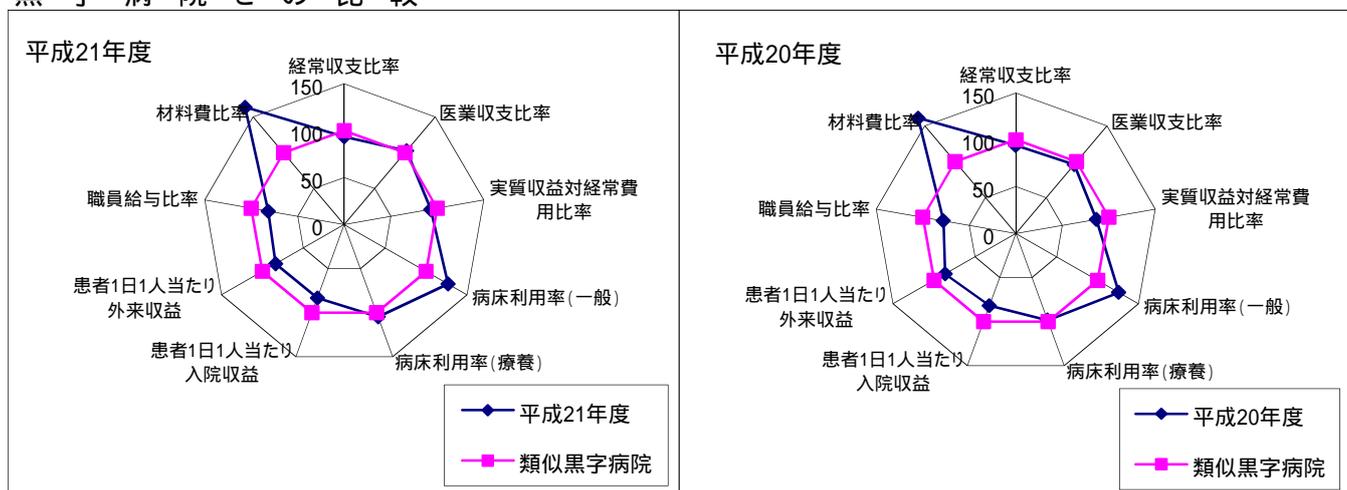
項目		21年度	20年度	前年比
医業収益	入院収益	1,009,892	967,916	104.3%
	外来収益	549,870	531,651	103.4%
	その他	228,397	202,148	113.0%
医業外収益	負担金	170,187	159,197	106.9%
	その他	71,007	207,013	34.3%
特別利益	特別利益	72,178	46	-
総収益		2,101,531	2,067,971	101.6%
医業費用	給与費	1,130,485	1,127,881	100.2%
	材料費	220,283	212,617	103.6%
	経費	379,368	417,704	90.8%
	減価償却費	211,825	214,842	98.6%
	資産減耗費	4,322	5,449	79.3%
	研究研修費	2,432	2,169	112.1%
医業外費用	医業外費用	154,610	158,205	97.7%
特別損失	特別損失	1,825	784	232.8%
総費用		2,105,150	2,139,651	98.4%
総収支		3,619	71,680	5.0%





3 経営指標等

主要指標の類似病院及び類似黒字病院との比較



類似黒字病院経営指標(平成20年度実績)の平均値を100とした場合の当院の平成20年度・21年度それぞれの実績との経営指標数値の割合を示したものである。

当院及び黒字病院の経営指標数値が類似黒字病院の平均値を上回っている場合(職員給与比率及び材料費比率については下回っている場合)に類似病院の線の外側に表示される。

(単位: %, 円)

項目	平成21年度	平成20年度	増減	改善方向	類似黒字病院
経常収支比率	96.5	96.7	0.2		102.9
医療収支比率	91.8	85.9	5.9		89.4
実質収益対経常費用比率	79.1	73.8	5.3		85.1
病床利用率(一般)	92.0	91.2	0.8		72.5
病床利用率(療養)	86.2	80.9	5.3		82.2
患者1日1人当たり入院収益	23,595	23,197	398		28,329
患者1日1人当たり外来収益	7,307	7,510	203		8,701
職員給与比率	63.2	66.3	3.1		51.6
材料費比率	12.3	12.5	0.2		20.1

改善方向については平成18年度より が改善、 が悪化したことを示している。

【収支構造】

経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$

病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上あることが望ましい。

医療収支比率 $\text{医療収益} \div \text{医療費用} \times 100$

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上あることが望ましい。

実質収益対経常収支比率 (経常収益 - 他会計繰入金) ÷ 経常費用 × 100

経常費用が経常収益から他会計繰入金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が100%以上あることが望ましい。

【収入構造】

病床利用率 年延入院患者数 ÷ 年延病床数 × 100

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要があります。

患者1人1日当たり入院収益 入院収益 ÷ 年延入院患者数

患者1人1日当たり外来収益 外来収益 ÷ 年延外来患者数

病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と1人当たりの収入という質的な要素が重要となります。

【費用構造】

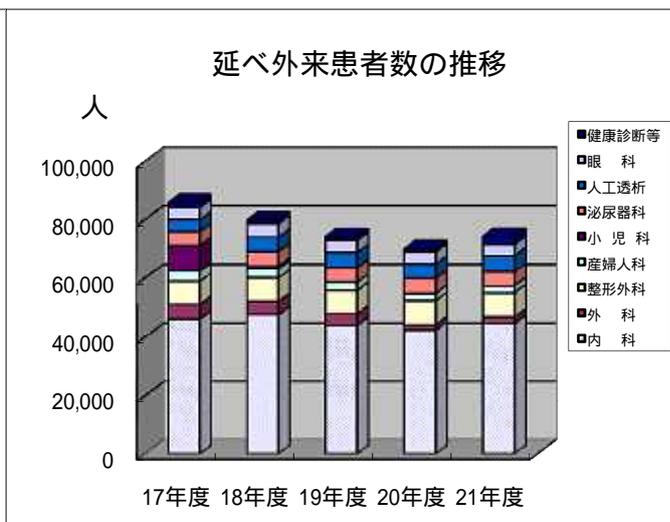
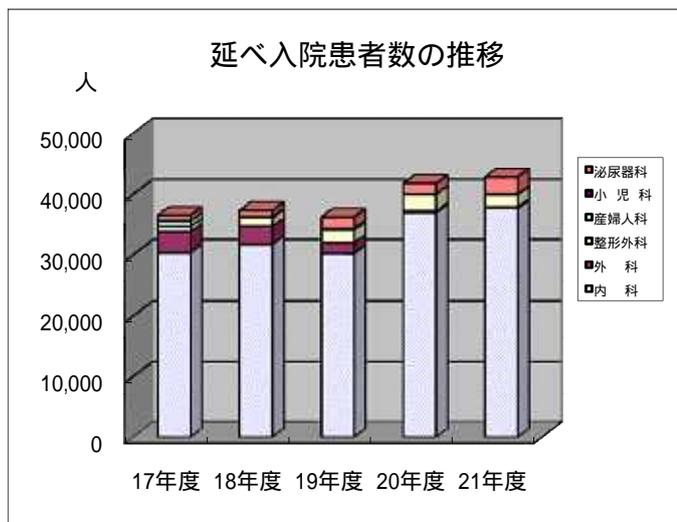
職員給与比率(職員給与対医業収益比率) 職員給与費 ÷ 医業収益 × 100

病院の職員数等が適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなります。(職員給与費には退職手当負担金、児童手当を含まない。)

材料費比率(材料費対医業収益比率) 材料費 ÷ 医業収益 × 100

病院において材料費は、職員給与費に次いで大きなウエイトをしめる医業費用。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の節減を図る必要があります。

4 患者数の推移



(入院)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
内科	30,315	31,662	30,212	36,942	37,655
外科	3,393	2,997	1,716	256	234
整形外科	907	1,431	2,052	2,757	2,022
産婦人科	936	208	337	28	84
小児科	43	0	0	0	0
泌尿器科	895	994	1,906	1,743	2,806
合計	36,489	37,292	36,223	41,726	42,801

当日退院患者含む

(外来)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
内科	46,179	47,725	44,153	42,503	44,738
外科	4,909	4,425	3,756	1,805	2,119
整形外科	7,754	7,857	7,895	8,041	8,147
産婦人科	3,590	3,222	2,737	2,496	2,304
小児科	8,806	939	73	0	0
泌尿器科	4,618	4,946	4,978	4,960	4,853
人工透析	4,111	4,943	5,254	5,142	5,551
眼科	4,276	4,564	4,184	4,050	3,869
皮膚科			544	706	974
健康診断等	1,871	1,216	1,178	1,091	2,702
合計	86,114	79,837	74,752	70,794	75,257